【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立北山東部小学校

1　前年度 評価結果の概要	・すべての項目で十分達成、おおむね達成となった。時間外在校等時間 年間360時間以内達成が全職員とはならなかったものの、業務改善及び職員の働き方に対する意識改革も前進し、教育の質の向上につながった。次年度は、更なるワークライフバランスの充実を実現させながら、以下4点の改善・充実に取り組む。 ①授業の「ふりかえり」の充実により、指導と評価の一体化を進め、自己調整力の向上等、主体的に学ぶ態度の育成を図る。「進んで学習」 ②集団や自身の高まりを考え、率先して範を示す児童を増やしたい。、何事にも失敗を恐れず挑戦する態度を養う。「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」 ③学年相応の役割や望ましい行動についての判断場面や思考場面を設定し、「みんなが」「みんなで」「みんなのために」協働する児童の育成を図る。「自分も友達も大切に」 ④地域、保護者、学校職員の議論を重ね、持続可能な取組としての山村留学の新しい形を定着させていく。
2　学校教育目標	**郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成** **「進んで学習」「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」「自分も友達も大切に」**
3　本年度の重点目標	**①めあてをもって主体的に学習し、自分の考えを進んで発信する児童の育成** **②健やかな体と心をもち、前向きに何事にも挑戦する児童の育成** **③自他や郷土の良さを知り大切にするともに、相手を思いやり、共に生きようとする児童の育成**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%(4名)以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研究等により取組の促進を図る。	A	・マイプランを共有することができた。教師それぞれがマイプランを実行している状況であり、評価はA が5名中3名、B が2名となっている。成果指標を概ね達成することができている。 ・見通しとしては、校内研の際に進捗状況を共有する場を設け、達成した教師80%の値を目指す。					柴戸・田中
	◎主体的な学び手を育成する授業の実践 (主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の改善充実)	○県学力状況調査及びCRTテストの国語の正答率で県平均を上回った児童75%(9名)以上	・次の学びにつながる「ふりかえり」の充実 ・一人一台児童用パソコンを活用した振り返りの児童間の共有及び蓄積と分析 ・妥当性のある指導と評価の一体化の実現 ・「個別最適な学び」と「共同的な学び」を一体的に充実させるための一人一台児童用パソコン活用	A	・校内研を通して「ふりかえりの視点」が共有された。そのふりかえりをもとに次の学習の見通しを持つことができている場面があり、ふりかえりが主体的な学びに寄与していると考えられる。 ・個別最適な学びに関しては、自分に合った学び方をパソコンによって実現できている。例えば、学習内容だけでなく、翻訳機能を使用して、言語をこえた学習の仕方ができている。 ・共同的な学びに関しては、自身の学習成果を投影し、学習を共同的に深めることができた。見通しは使用方法や実践例を共有する。					田中
	○ICT機器を活用した協働的な学びの実現	○ICT機器を活用した外部交流のオンライン授業を各担任、前期1回、後期1回の計2回実施	・ICT機器を活用し、共に学ぶ学習者や指導者を学校外に求めるオンライン授業の工夫。 ・極小人数を補うオンライン授業や複式解消を目的としたオンライン授業の実施。	A	・小川小学校との交流授業を計画し、実行できた。ただ電波状況の点から円滑に実施ができなかった。順調である。 ・見通しとしては、電波状況を克服し、同規模校とのオンライン授業を引き続き実施する。ただし、複式解消を目的としたオンライン授業の実施は検討中である。					草津
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「いつでも・どこでも・だれとでも『みんなが』を考えた行動ができた」と回答した児童85%(11名)以上	・「みんなが」を合い言葉にした全職員による一貫性のある指導の徹底 ・特別活動における集団活動やソーシャルスキルトレーニングで、「みんなが」を考えた行動についての思考・判断場面の設定及び評価の充実。 ・生徒指導における年間を通じた指導の充実を図る。 ・月１回の人権集会の充実を図る。	A	・学校評価アンケートで「いつでも・どこでも・だれとでも『みんなが』を考えて行動ができた」と肯定的な回答をした児童100%。 ・月1回の人権集会や全校人権学習でのソーシャルスキルトレーニング等、「自分も友達も大切に」に繋がる場面を多く設けることができた。 ・1学期は自分優先だった児童たちが周りのことを考えて行動でいるようになってきている。高学年の児童は下学年の児童を気遣い、下学年の児童も高学年の児童の姿に学んでいる。					野中・柴戸
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「こまったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答した児童90%(12名)以上	・児童が困った時に話しかけやすい、学校・家庭の環境づくりの計画的な取組の推進 ・SOSの出し方教育の推進 ・教育相談週間、SCによる教育相談の充実。 ・報告・連絡・相談及びいじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	B	・「困ったことやいやなことはすぐに相談できる」に肯定的に回答した児童は100%（15人中15名）であった。 ・家庭との協力という点ではまだ推進できていない。 ・養護教諭からのSOS出し方の発信を人権学習の時間に実施した。 ・SCによる全児童への個人面談を実施し、心のケアに対応している。 ・児童間でのトラブルが起こった時には、被害者、加害者双方に丁寧な聞き取りをし、全員が納得できるよう解決に向けて取り組むようにする。また、保護者にも丁寧に伝える。					山田・教頭
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○「スポーツチャレンジを精いっぱい努力し、目標に近づいた(達成した)と回答した児童75%(9名)以上	・県保健体育課実施のスポーツチャレンジの種目の中から全校で「たてわり8の字とび」「みんなでウォーキング」の2種目にエントリーし、目標を設定した長期的スパンで取り組む。	B	・学校評価アンケートで「スポーツチャレンジを精いっぱい努力し、目標に近づいた」と回答をした児童は15名中14名。 ・「たてわり8の字とび」は運動会で熱心に取り組んだ。その後も継続して練習に取り組んでいるが、児童数が少ないためうまくいかない点もある。 ・「みんなでウォーキング」は10月から熱心に取り組んでいる。毎朝登校後に前日の歩数を自分で記録。記録は見えるところに掲示しているため前日の歩数などと比較しながらウォーキングに取り組んでいる。					草津
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各行事・取組における前年度踏襲の見直しを図る。 ・「働き方改革」のための議論の場を年間2回以上設定する。(改善アンケート8月、1月) ・教諭等の業務の一部を支援する等事務職員の学校経営への参画を進める。	B	・4月～9月では全ての月で時間外在校等時間の上限(45時間以内)を守ることができている。※職員平均 ・行事の精選についてはコロナ以前行っていた行事の復活もあり、進んでいないところがある。引き続き、職員間で行事等、業務見直しを推進する。 ・月の半ばで上限の半分を超えた職員、月末に上限を超るか越えそうな職員は、働き方を振り返り、改善策を共に考える場を持つ。					教頭・県費事務職員

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特色ある学校づくりの推進	○保護者・地域と協働した持続可能な取組としての山村留学の改善・充実	○「やまぼと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる」と回答した保護者90%以上。	・実行委員会（地域、保護者、学校）で、持続可能な山村留学のあり方についての議論を重ねる。 ・家族留学生を2世帯以上確保を目指して、家族留学制度の充実及び啓発に努める。 ・教育活動の見直しを行い、学校の特色となる取組の焦点化・重点化を図り学校の魅力度アップに努める。 ・ホームページ、学校だよりで学校の取組を広く発信し学校の特色を広める。	B	・山村留学については、現時点で4回の実行委員会を開催し、取組の変更・改善について話し合いを続けている。今年3年ぶりに短期留学を開催し9名の留学生を迎えた。 ・家族留学の推進について、空き家の確保や改修について費用面や環境面での支援を検討している。 ・コロナ禍で行事縮小や参加人数の制限をしてきたが、学校行事の正常化を見据え、できることから進めている。その際取組の焦点化、重点化を図るようにする。 ・引き続き、ホームページ、学校便り、保護者・地域の集まりの場等での学校の取組の発信の強化を図る。					教頭

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	